

山寺ふるさと便り =第9号=

宝珠のしずく

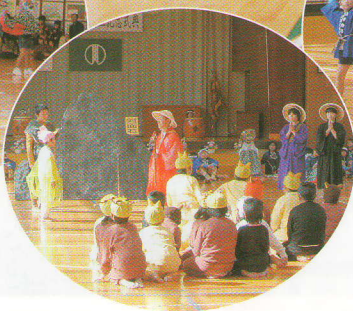
題字 後藤仁田(性相院)

発行所 山寺公民館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

学べ、つなげ、伝統の道



おめでとう

山寺小学校創立百三十周年

昨年十一月六日に、山寺小学校創立百三十周年（山寺中五十七周年・山寺小中併設十七周年）記念式典が山寺小中体育館で盛大に行われた。

開催にあたり、創立記念事業実行委員会を、地区振興会・同窓会・PTA・学校とで組織し、子どもの姿を前面に押し出した行事を企画。小・中学生が一緒になって考えたテーマ『学べ、つなげ、伝統の道 築け、進め、新たな道』

を掲げ、記念事業を次の三分野で進められた。

- ・総務部：創立記念式、祝賀会の案内、広報。
- ・編集部：創立百三十周年記念リーフレット編集（全戸配布）。
- ・行事部：記念祝賀会の企画実施。

当日は、学校長の式辞や来賓祝辞の後、小学生の『山寺物語』、中学生の『磐司太鼓』が披露され、百二十六名の来賓の方々より「生き生きとした子ども達の姿に感動した」と声が寄せられ、祝賀会では、昔をしのび、はじけるような歓談が続いた。山寺小中学校の『山寺ならではの人づくり』の新たなスタートにふさわしいみごとな記念事業となった。



♪ 昨年七月から九月までの三ヶ月間 JR各社による全国誘客キャンペーン『おいしい山形・ディステイネーションキャンペーン（DC）』が開催された。

全国から、山形県を目的地として来てもらうという主旨で、山寺では山寺観光協会が中心となり「歴史が灯る 山寺 光と風のシンフォニー」のキャッチフレーズを掲げ、山寺地区振興会の絶大なる協力を得、各種団体、また子どもから大人まで地区挙げてイベントを繰り広げた。



七月三日（土）根本中堂から頂いた灯を先頭に、七十名の御詠歌隊が「奥の聖地は山寺の立石寺こそ尊けれ」と山寺和賛を唱えながら、風雅の国を目指した。その途中、授けられた灯で、光のロードが完成した。

夜七時に宝珠山のライトアップが開始され幻想的に映し出されたお堂は見に来た人々を魅了した。ライトアップは三ヶ月間毎夜続けられ、「来年も是非やってほしい。」と、期待の声が寄せられた。



八月八日（日）に磐司祭実行委員会が中心となって、夜行念仏・山寺民俗芸能保存会の磐司太鼓・長瀬猪子踊り・高嶺獅子踊りが奉納された。開催日を日曜日に変更した事で地区の方々や観光客など多くの人々に見てもらえた。

今後、立石寺に関わるしし踊り団体が山寺に集まって、伝統芸能を継続していくという動きがあり、その開催が楽しみである。



八月二十二日（日）「まちがステージ」という考えで、宝珠橋公園を発表の場として、長瀬猪子踊りクラブ、山形銅町たたら太鼓・山寺中学生による磐司太鼓が発表された。これは地元高校生ボランティア「やまでら組」が主体となって計画実行し、各団体の発表後はやまでら組が準備した玉こんにゃくをごちそうした。また、参加した子ども達を、山寺中学校生徒が宝珠山一帯を案内して、交流を深め合った。



が灯る
寺
ンフォニー

い山形
ンキャンペーン
1~9/30





七月三日(土)トロッコ列車「風つこ山寺芭蕉号」(山形駅～山寺駅運行)のオープニングイベントが行われた。
第一号列車に、芭蕉に扮した市川市長と曾良に扮した水野山寺観光協会会長が乗車し、山寺小坊主と共に、車中で乗客へミニこけしのプレゼントをした。また山寺駅前広場では、山寺民俗芸能保存会と山寺中学校生徒による磐司太鼓が演奏された。
トロッコ列車は大変好評でライトアップ鑑賞号も増発された。



山寺観光協会と天童温泉お駒会同青年部との連携で、計三回のミニくちびるコンテストが開催された。宝珠山ライトアップに合わせて天童から運行された「ライトアップ鑑賞バスツアー」のお客様を中心に、風雅の国特設会場と宝珠橋公園でにぎやかに行われた。参加した人達は、老若男女を問わず、自分で赤い口紅をぬったり、おかみさんにぬってもらったりと楽しそうだった。



歴史の山 風と光の山

「おいしい
ディステネーション」
2004.7/



九月三十日(木)DCのファイナルは、地元山寺が誇る「女声合唱団ふうが」のコンサート。風雅の国馳走舎で幻想的に光る宝珠山をバックに数々の曲を披露。最後に『ふうが賛歌』私達のふるさとこの山寺に〜で飾り、参加者を感動させた。
最後にイベント当初より灯し続けた灯を根本中堂にお返しした。その際、清原浄田立石寺貫主より「元氣な山寺」のあいさつをいただき、DC各イベントの全日程を終了した。



山寺駅長 阿部さんから

トロッコ列車は日ごとお客様が増えていき、「おもしろかった」と子ども達の笑顔が見られて良かった。山形・天童・山寺と三者協力し合えた事が成功につながったと思う。今後、観光面でますます発展していくよう努力したい。

山寺観光協会長 水野さんから

少ない予算の中で地区振興会や風雅の国と三十三のイベントを企画、地元消防団や各団体の手をお借りし、実施することができて大変良かった。特に、いままでの四寺廻廊に加え、天童温泉や他地区と深く関わりを持つことで広域観光ができたことは大きな成果であった。また協会のあがらつしやい隊、ローソク隊も本当によくがんばってくれて嬉しかった。

今回のDCで得たものを今後も継続していかねばと思う。その為にも多方面からの声(山寺中生徒の総合学習等)に耳を傾けながら、観光山寺の発展にがんばっていききたい。

最後にDC期間中のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

(来年度もトロッコ列車とライトアップを小規模ではあるが実施予定)

平成16年
(2004年)

地区ニュース

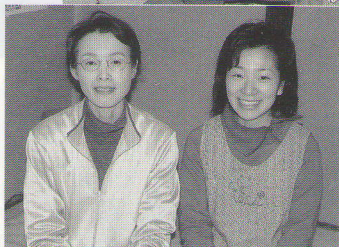
新設

山寺小学校学区
学童保育

「山寺かじの木子どもクラブ」

平成16年11月1日

かじの木クラブには現在10名の子どもがいて、学校の放課後（家の人が迎えに来るまでの間）を楽しく過ごしている。お世話下さる方は、穂波恵子先生（天童市寺津）と原田妙子先生（芦沢）のお二人で、子ども大好き、経験豊かな先生である。



問題は二つ、開設家屋と開設時期である。家屋は学校の敷地の西隣、柏倉順一郎氏から快諾を得、グラウンドから直接通うことが可能となり、時期については山形市児童福祉課から特段の好意と援助を頂いて、年度途中ながら開設することが出来た。今後、多くの方々から支援を頂き子ども達が安全に、楽しく、充実した放課後を過ごせるピカイチの学童クラブに育ってほしいものである。

〔注〕かじの木は山寺小学校の校章となっている。

「猿よ去れ」

— 電気柵設置など —

芦沢地区の山から駅裏にかけての果樹園に電気の通った立派な鉄の柵が設置された。これは長年猿の被害の絶えない地域に、国の中山間地域総合整備事業として作られたものである。しかし作っては見たが、この地域には環境庁が設置した「天台の道」があり、通路の扉は夜だけ閉める状態となっている。

この外に山寺地区内の工事として「馬形堰」の農業用水路施設整備も完成された。



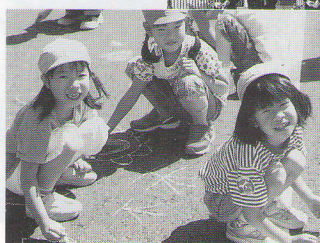
スーパー農道

宝田跨線橋開通式典

九月十六日（木）村山広域農道、通称スーパー農道高瀬駅東、宝田跨線橋が開通した。正午から二時までは歩行者道路として開放され、幼稚園児による道路への落書き、写真撮影などが行われ、交通安全祈願祭、開通式典の終了と共に午後三時に一般車両通行可能となった。この開通で天童市から、山形市滑川地区へと結ばれ、山形道関沢インターへ、また山寺から県庁方面へと一段と交通の便が良くなり、観光地山寺への誘客にも役立つものと期待される。



「たのしいなあ〜」
天童東幼稚園児



山寺地区振興会の活動

「もう一つの山寺」をめざし

「元氣な山寺」振興を

「後世を担う方々に魅力ある山寺を創り引き継ぐ」ことを考え、「もう一つの山寺」をめざした「元氣な山寺づくり」を報告したい。

第一は、「知る」活動

山寺の魅力を知り、誇りを持てる活動を展開した。

具体的には、第二年次「生き生き地域づくり支援事業」の取り組みを挙げたい。山王祭のビデオ配布、「もう一つの山寺」歴史・祈り・祭り」カレンダーの作成配布、「山王祭」シンポジウム等々で、多くの共感を得ることができた。

第二は、「つながる」活動

お互いがつながり合ってはじめて大きな地区づくりのエネルギーが沸き出る。DC各イベントでは、近年にない見事な連携で山寺地区民の共有財産である「観光山寺」を打ち出すことができた。この取り組みで諸連携が大きく膨らんだ。

具体的には、共有財産「観光山寺」を前面に打ち出したDC各イベントは、山寺地区内外の方々に大きな反響を巻き起こした。この中で高瀬地区と連携できたことは特筆に価する。

「山王祭」を山寺づくりに生かして



いきたいという議論を展開した。この協議は、山王祭への関心を大きく育てたという意味で大きな収穫であった。今後とも、叡智を結集して、山王祭という山寺の文化遺産を大事にし、継承する努力を続けたい。

また、追分花壇の花壇コンクール二年連続「最優秀賞」受賞は、山寺の誇りとなり、他地区の驚異の的になった。

さらに、行政の計らいで、町内会要望の居住環境整備各種工事（水道工事等）が数多く実施され、住環境整備が進んだ。

第三は、情報発信活動

何と言っても、「我が山寺を意識づける」原動力になるのは、内外への上手な情報発信である。マスコミへの山寺の登場回数が増え、「元氣な山寺」が各方面で大いに話題になった一年であった。

他地区にも配布した500部の「もう一つの山寺」歴史・祈り・祭り」カレンダーが、今後、「元氣な山寺づくり」の先兵になり各方面で活躍してくれるものと期待している。

以上の活動を月二回定期発行の「振興会ニュース」でお伝えできた。それも50号を越え、山寺振興活動の大きな情報発信力となってきた。

『ホレ！ほっちゃねげだぞ』

山寺、楯山等の郵便局長会が主催、観光協会、山の寺子屋会員が協力して、磐司祭終了後にニジマスの手づかみ大会を行った。

突然の雷雨に見まわれたが宝珠橋の真下に約三百人が集った。放流魚の数が心配されたが、冷たい水に素もぐりし十匹もつかまえた子もいた。



子どもも大人も大変盛り上がり、笑顔がざつぷりの一日であった。

「山寺のオアシス」



近年所部橋周辺の川原に夏になると子ども達が大勢集まって、水遊びをしている光景が連日のように見受けられる。山寺の子どももかなと、良く見ると、見知らぬ子どもも沢山いる。どこから来たのと聞いてみると、山形から、天童から、東根からと答える子どもの中に混じって仙台からと言う高校生もいた。

どうしてここが気に入ったのと、聞いてみると、頭上に樹木の枝が張り出して日陰を作り、滝の淵、それに自然の岩盤丸出しの風景が良いと言う。週末にでもなれば、弁当開きの家族連れも多く見られる。

そこで、山の寺子屋の会員が朝から周辺の清掃をし、よりよい環境づくりを行っている。

おらが地区

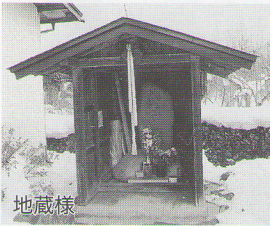
中地蔵

明治二十二年山寺村と荒谷村が合併した。当時の山寺村は今よりずっと広がったのである。その村の中間にあつた当地は松原と呼ばれていたが昭和二十一年頃、町内に地蔵尊が祭られていることから「中地蔵」と命名された。

昭和五十年頃、四十戸しかなかった住宅も今では四十八戸になり、人口も増加した。平成十年四月に元の山寺中学校跡地に老人保健施設「サニーヒル 山寺」が開設され、今では多くの人が利用している。

地区の南側に立谷川が流れ、その対岸西に大森山を望み、山のふもとをスーパ―農道が走っている。山寺街道とそのスーパ―農道の交差点には平成十五年二月に山寺では初めての信号機が設置された。

また、恵まれた気候を利用し、さくらんぼやラ・フランス、そしてりんご等の果樹栽培が盛んに行われている。地区の方々は一
温厚、円満、一致団結、地区発展の夢と希望を持ちながら毎日生活している。



地蔵様

みんな集まれ!! 育児サークル「じゅ・あん」

昨年四月、育児サークル「じゅ・あん」(珠庵)誕生。毎月二回、入園前の幼児とお母さん方が山寺公民館に集まり、絵本の読み聞かせや手遊び、外遊びを通して、楽しい時間を過ごしている。

先日行われた親子ピクス(親と子のエアロビクス)を見学させてもらい、参加している方々のお話を伺った。☆子どもの病気や育児で悩んでいた事など、同じ子育てをしている仲間と話をすることでとても安心できる☆嫁いできて、なかなか友達ができなかつたけど、みんなと集まっていワイイできるのでとても楽しい。

☆情報交換ができる大切な場。等々。アンパンマンの歌や童謡に合わせて、たのしそうに踊る姿にほのぼのと心温まる思いがした。
「すこやかな成長を!!」



問い合わせ先 代表 原田妙子さん
(六九五―二〇八二)

元気に育て大山桜



昨年の十一月に、地区振興会・観光協会・山の寺子屋の協働で南院地区の立谷川南岸に十五本の大山桜を植えた。

この桜の開花はソメイヨシノよりやや遅いが、一つ一つの花は大きくピンク色の濃いのが特徴である。苗木は西蔵王高原で実生から心を込めて育てられた六年物の太さ。
やがては、対岸のもみじと共に観光山寺にふさわしい花を咲かせてくれるでしょう。

山寺歴史の道「長左エ門道」

最近、長左エ門道の山寺側と、白山高原の両入口に道標が立てられた。関山街道、笹谷街道開削以前に山形から仙台に最も近い街道として明治七年から明治十二年にかけて白山越えで開削された道で、山寺にとって忘れてならない道である。

その計画と資金提供は後藤長左エ門氏(千手院後藤正悦氏のご先祖)で、自宅の庭先に記念碑が建てられている。この事業に対し、三島通庸山形県初代県令から、長左エ門氏に当時、褒賞金五百円を授けられた。
今現在、この道は当時の面影はななく、少々荒れた林道になっている。しかし、面白山山中の「長左エ門平」までの約八キロメートルは、明治初期の街道開削ロマンを楽しめる恰好のトレッキングコースである。



話題の人

後藤 まささん

（大正七年十二月十九日生）

慈愛に満ちて



満八十六才というのに足腰は達者で姿勢も乙女のように。結婚前に産婆看護婦の資格を取り保健婦として鈴川役場に勤務、山寺が山形市に合併した年に山寺支所に移り、診療所を経て山寺公民館で定年退職となる。

職務の間に華道のほか絵と書を上山市の高橋東山先生に師事し親交を深めた。先生の葬送に際してはかねてからの約束通り弔辞を奉呈する。書と絵の腕は世人の認める所。

退職後は頼まれて近所の子に習字を教えたり、賞状を書いたり。ある時子どもから「俳句作れるか」と聞かれて自作の句を見せた所、「そんなの俳句じゃない。季語がないぞれ。」と教えられ修正して、「犬ふぐり青さ負けじと空見上げ」を示したら、「今度は俳句になった」とほめられたとか。笑顔で話された。今も月二回、古文書教室に通って勉強されている。

おめでとう

金婚さん



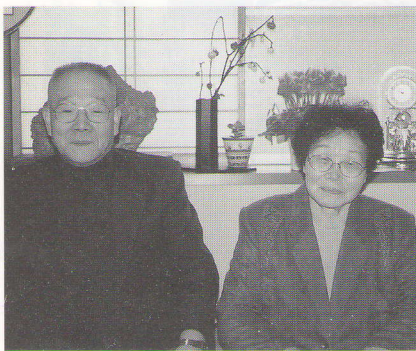
遠藤さんご夫妻（南院）

お二人のご結婚は、昭和二十九年十二月十四日である。

覚さんは市の技能職員として山寺小、鈴川小、高楯中と二十五年間も精勤され、功労賞を授与された。

秀子さんは青柳の農家生まれで、当時は食糧難の時代とて米三俵を持参しての嫁入りだったと話される。

お二人は、今本心に豊かに暮らしておられる。山形国体の年に公民館跡地に開いた「芭蕉茶屋」での心のこもったもてなしが架け橋となり県内外の多くの方々のお付き合いが広がっているからである。横浜の辻 増次氏贈の宝珠山の水墨画は、茶屋の宝物であり、お二人のもてなしの証のひとつである。



遠藤 覚さん 秀子さん ご夫妻

お誕生おめでとう

平成十六年 お誕生



海斗ちゃん



光姫ちゃん

（川原町）

・遠藤宏総氏長男

海斗さん

・遠藤 仁氏長女

光姫さん

（芦沢）

・山田和人氏二女

樹奈さん

（中地蔵）

・山田宏市氏二女

蒼生さん



樹奈ちゃん



蒼生ちゃん

◎受賞・表彰・全国大会出場（敬称略）

・厚生労働大臣感謝状

・武田久之進・矢萩 菊雄

・山形市伝統工芸技術功労受賞

・海谷 好雄

・山形市を美しくする運動功労表彰

・山寺地区振興会

・山形市花壇コンクール最優秀賞

・市政施行百十五周年記念善行者褒章

・地蔵堂花壇愛好会

・全国高校総体（島根）国体（埼玉）

・円盤投 堀川 貴久

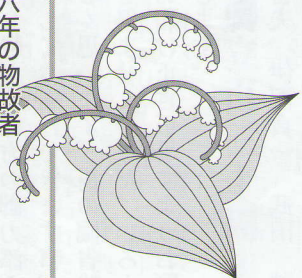
・全国高校総体（島根）

・卓球 遠藤 佳祐

・全国小学校卓球大会（兵庫）

・遠藤 幸奈・後藤 未紀

平成十六年の物故者
謹んでお悔やみ申し上げます



（千手院）

・後藤ハチヨ殿

（所部）

・増子 清逸殿

・武田まさを殿

・増子市三郎殿

・武田 政美殿

・増子 みん殿

（馬形）

・佐藤 光男殿

・小笠原藤二殿

・安藤 藤雄殿

・会田 富子殿

・布施 正殿

・松瀬 健志殿

（南院）

・遠藤ふみ子殿

・柏倉 いし殿

（芦沢）

・伊澤 多淑殿

・柏倉弥平治殿

（宮崎）

・松田 フミ殿

・矢萩百合子殿

（地蔵堂）

・布施 くに殿

・布施せつ子殿

（中地蔵）

・布施仁右衛門殿

・柏倉ぎよの殿

・柏倉しげの殿

・増子曾太郎殿



山寺の文化財 聖観世音菩薩立像

華蔵院御本尊

この佛像が立石寺創建当時のものと伝えられている。塔中寺院の御像の中で最も古く、木造としては価値高いものといえられて来た。それだけに損傷が著しく、今にも倒れそうになっているというので復元大修理をお願いする事となり、東北芸工大の元教授、牧野隆生氏に依頼、この度修復が完了し華蔵院に戻ってきた。教授の話によれば、制作年代は平安時代、全て一木造りで蓮台と光背を備えていた立派なものだった。だが、立石寺一山が天童藩の焼討ちに合った大永元年から二十年余、洞窟の中に避難していた為、より損傷を早めたものであった。江戸中期頃、旅籠町の大佛師田先安蔵の手で修理され、その時、本体と台座が分離され玉眼が施されたとの記録がある。重要文化財に匹敵する価値があると聞いている。

保護者と共演『山寺物語』

記念式典にふさわしい

山寺物語にしようと、衣装、大道具、小道具、音楽をリニューアルした。

衣装は九名のお母さん方が学校に集り、一週間かけて製作してくれた。特に低学年の動物の衣装は、役になりきって演じれるようにと工夫され、当日、愛らしく踊る子ども達の姿は皆の目をひいていた。またししの面も牛乳パックで立体的に作られ、慈覚大師、誓司一行の衣装も見違える様だった。（わらゾーリは千手院の佐々木徳恵さんからいただいた）

本番では、しし踊りと石切踊りに保護者も一緒に参加し、昔踊ったところがある人・初めて踊る人、その様子から、山寺物語の歴史の流れ、重さを感じることができた。

指導にあたられた斎藤教頭は、「山寺小に赴任して、初めて山寺物語を見た時、大変歴史あるすばらしいものだと思った。これを記念式典で、地域の方、旧職員の方々に最高の形で見ていただこうと子ども達とシナリオに工夫を凝らした。当日出席の方々より賞賛をいただき感激だった。保護者の方々の協力に心よ



り感謝したい。」と述べておられた。これからの学校の在り方を示唆してもらったような創立百三十周年記念行事であった。

感想

○子ども達の声

「先生方、お父さん、お母さん方のおかげで、新しい衣装、道具で踊ることができてうれしかった。これからは『山寺物語』を大切にしたい。」

○保護者の声

「一緒にしし踊りができ昔に戻ったような気がした。また参加したい。」
「新しい衣装で演じてもらいたいと、生地捜しで仙台まで行ったり、苦労もあったが、当日の子ども達の山寺物語を見て、みんなががんばったかいがあったと感動した。」
「初めて石切踊りに参加して、最初とても恥ずかしかったが他地区にはない貴重な体験ができて良かった。」

山寺小の歴史

この度の創立記念に際し、山寺小学校卒業生の伊澤貞一氏が上記の扁額を寄贈された。山寺小・中学校の図書室に掲げられている。

「書を読めば 志、彌、高し」

山寺小・中学校同窓会に。

山寺小学校百三十周年の企画運営の過程で、山寺中学校同窓会が「山寺小・中学校同窓会」になった。今まで小学校同窓会は組織されていなかったので大変喜ばしい事である。

編集後記

アテネ五輪で史上最多のメダル獲得。一方、台風、地震と災害の多い年でした。この悪猿も去り、実り豊かな西年でありますように！しずく9号、皆様方の御力添えを頂きましてお届けできます事、大変嬉しく思います。併の欄省略せざるを得ませんでした。いろんな声、お届け下さいますようお願いいたします。

編集委員

後藤哲夫 伊沢貞一 武田 誠
布施晶嗣 田中文字 遠藤まき子

欄干（宝珠橋）お色直し 四月

